

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成29年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

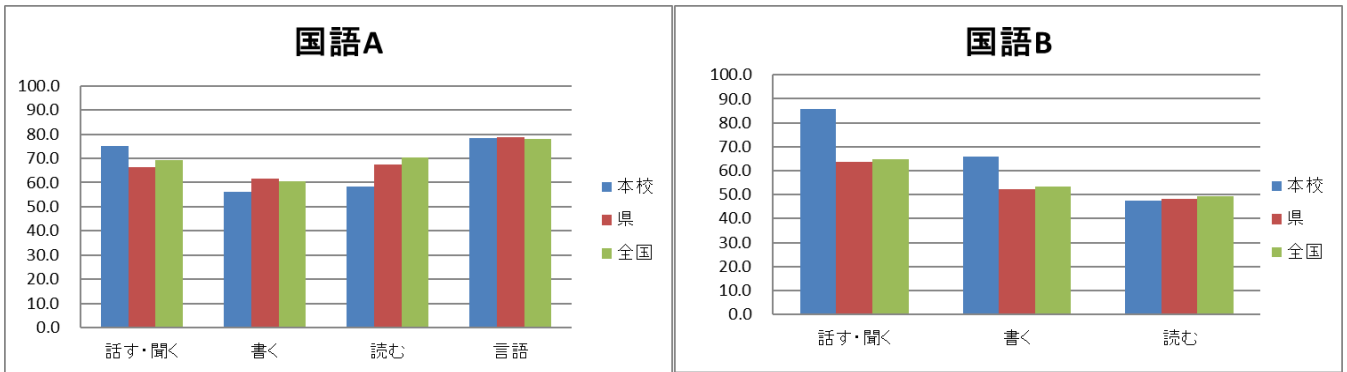
全国学力学習状況調査は小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国及び県の正答率との比較



全領域の正答率の合計では、基礎的な知識を問うA問題でやや全国・県平均を下回ったが、活用力を問うB問題で、全国及び県平均を上回った。A問題・B問題ともに「話す・聞く」では、全国平均を上回ったが、「読む」は下回る結果となった。難解な文章問題が続くB問題でも全設問無回答0%で、どうにかして自分の考えを書き表そうという態度は身につけている。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・A問題・B問題ともに全国・県平均を上回った。学級での朝や帰りの会での「スピーチ」、ブロック集会での「ノー原稿スピーチ」や「感想交流」、「インタビュー」、読み語りボランティアの方への「感想の発表」、体験活動での児童による司会進行等、少人数を生かして様々な場面で、人前で話す場を設定し、よかったところや今後改善すべき点をその指導しレベルアップを図った成果が現れてきていると思われる。

書く

・B問題で全国・県平均を上回ったものの、A問題で下回る結果となった。「手紙の後付の日付・署名・宛名の配置」を問う設問での正答率が低かった。家庭でも手紙を書く機会は少ないと思われる。7月に郵便局の「手紙の書き方教室」事業を活用し、葉書の書き方の学習を全学級で行い、児童・教師からも好評であった。今後も、生活科・総合的な学習等でも、依頼文やお礼状、案内状などで実際に活用する活動を取り入れる等、指導を工夫していきたい

読む

・A問題・B問題ともに全国・県平均を下回った。「目的に応じて必要な情報を見つける」「発言者の言葉の意図を捉える」設問の正答率が低かった。授業の中でも、問われた設問の意図を的確に捉え、理由や根拠を文章の叙述をもとにきちんと読み取る習慣を身につけさせる必要がある。

言語事項

・おおむね全国・県平均と同等であった。漢字では、設問によってかなり正答率の差が見られた。本校はAB年度カリキュラムでの複式指導をしており、2年間をかけて、確実に漢字の習熟に努めていきたい。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

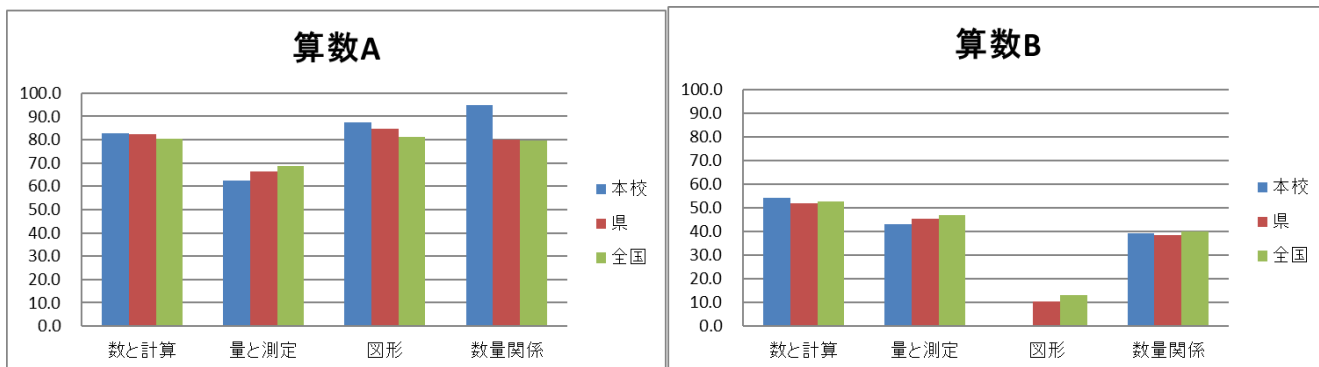
- 国語の授業を中心に、「読む」「書く」「聞く」「話す」といった力を身につけます。また、獲得した国語力を他教科に活かす授業を仕組んでいきます。
- 特に、相手に考え伝えるための方法を理解させ、思考力、表現力の向上を図ります。
- 朝の読書、読み語り等、**読書の充実を図り**、主体的に読書に取り組む子どもを育てます。

【ご家庭では次のことをお願いします】

- 読書で語彙力を増やしましょう。
- お子さんと会話を増やすことが大切です**。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話し、共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流してください。
- 漢字、音読の学習で、**頑張っているところを見て、誉めてあげてください**。

(1) 結果

全国及び県の正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題は、全国・県平均を上回った。活用力を問うB問題では、トータルでは全国・県平均とおおむね同等だったが、領域ごとの結果ではかなりばらつきが見られた。無回答は、A問題・B問題計26問中、B問題の3問以外は全員解答しており、どうにかして解こうと集中してテストに臨むことができていた。

(2) 成果と課題

数と計算

・全国・県平均を上回った。日々の学習の積み重ねと、週に2度の放課後学習(友愛タイム)の効果が現れている。今後も、安定した計算力を持続できるよう指導を継続していく。

量と測定

・全国・県平均をやや下回った。「仮の数値をもとに平均を求める」設問の正答率が低かった。この設問には、同様の問題の解き方の例示が示されているが、それを活用できていない児童が多く見られた。教科書でも、「〇〇さんの考え」と例示がよくされているが、丁寧に取り扱い、他者の考えも説明できるようになる力を身につける必要がある。

図形

・A問題で全国・県平均を上回ったものの、B問題で下回った。B問題では、「大きな円の直径は小さい円の直径の14%長い、というヒントをもとに、大きな円の直径を求める」設問で8名全員が誤答であった。図形の理解度というよりは、「割合・百分率」の理解が不十分であることが明らかとなった。対応数直線等を活用しながら、しっかりと習熟させたい。

数量関係

・A問題では全国・県平均を大きく上回った。「統計を二次元表に分類し記入する」設問は全員正答だった。「様々な棒グラフや帯グラフや円グラフの中から、目的に応じたグラフを選ぶ」設問の正答率が低かった。算数科だけでなく、社会科や理科などのグラフ資料も活用し、読み取れることを文章などで表現する学習に取り組む必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 火曜日・金曜日の放課後に「友愛タイム」(プリントでの補充学習)に取り組み、**基礎・基本の四則計算の定着、単元ごとの確実な習熟**をめざします。
- 授業では、「つかむ→見通す→考える→深める→まとめる」北山校授業モデルに全学級で取り組み、論理的思考力を高め、**自分の考えを筋道立てて説明できる力**をつけるよう努めます。
- 小中一貫校の強みを生かし、中学部教諭の乗り入れ授業を行い、中学校の学習に繋がります。

【ご家庭では次のことをお願いします】

- テスト結果だけでなく、お子さんがどんな問題が得意で、どんな問題が苦手なのか、家庭学習の様子に目を向け、**励ましや称賛の言葉**をかけてあげてください。
- 算数好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番です。**学校で習った算数を使う生活場面を作ってあげてください。**「おかし数えでかけ算」「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」…身のまわりには算数を使える場面が意外とあります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	87.5	95.1
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	75.0	80.3
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	87.5	91.9
平日2時間以上テレビを見る。(DVD視聴も含む)	62.5	55.7
平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	12.5	31.1
平日読書を30分以上している。	25.0	36.5
平日読書は全くしない～10分未満。	25.0	36.6

「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムはおおむね身につけている。テレビ視聴は全国平均よりも多い結果となった。ゲームについては、全国平均より少なく、長時間ゲームをしている実態はない。読書については、学校での朝読書や図書室祭りなど読書に親しむ取組をしており、図書館の本の貸し出し冊数も年々増加しているが、家庭ではあまり読書をしていない実態が現れている。読書カードの活用、児童相互によるおすすめ図書の紹介、書物を読んで紹介したりまとめたりする家庭学習の課題の工夫等、さらに読書量が増えるよう取り組んでいきたい。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	25.0	27.1
平日1～2時間勉強している。	37.5	37.3
平日0～1時間勉強している。	37.5	35.6
家で、学校の宿題をしている。	87.5	96.9
家で、授業の予習をしている。	37.5	41.0
家で、授業の復習をしている。	62.5	53.8

家庭学習については、おおむね全国平均と変わらない結果となった。学校では、きちんと宿題が提出されているかを確認し、宿題の間違い直しについてはその日のうちに取り組んでいる。6年生にしては家庭学習の時間が短いと思われる。学習内容についても宿題と復習が中心で、予習をしている児童は少ない。今年度から、中学部の期末テスト前の部活停止時期に合わせ、「家庭学習強化週間」(家勉強がんばろう週間)の取組を始めた。中学部進学に向けて家庭と協力しながら家庭学習時間を増やしていきたい。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 宿題として「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に毎日出します。自主学習(自学)についても、お手本になる**自学ノート**を掲示したり、工夫を凝らした自学ノートを書いた児童を称賛したりすることで、意欲を持って自主学習に取り組むようにしていきます。
- 「**家勉強がんばろう週間カード**」や「**学校評価アンケート**」をもとに、**生活習慣や学習習慣についての個別指導**を続けていきます。
- 「**立腰**」に取り組み、集中して学習することを、今後も全学年で取り組んでいきます。

【ご家庭では次のことをお願いします】

- 「**家庭学習の手引き**」を参考に、家庭学習の内容を確認され、**自学ノート**の確認をしていただき励ましていただくことで、より児童の自主的な学習態度が育まれていくと思われま。
- 中学校の期末テスト前の「家勉強がんばろう週間」では、テレビを消すなど中学生だけでなく小学生も勉強に集中できる場作りに協力をお願いします。また、お子さんの勉強の様子を親子で確認していただくことで家庭学習への意識が更に高まると思います。
- 食事中、家庭学習中の姿勢等、家庭でも「立腰」**の取り組みへの協力をお願いします。